

ほうさやまかずお

## 市政報告

発行:富山市議会議員 自由民主党 柞山 数男

富山市婦中町新屋501 Tel (FAX)465-1212

E-mail:kazuo-co@kami-nei.ne.jp

http://www.housayama-kazuo.com/

平成30年  
12月定例会

## 一般会計補正予算

8億7,631万3千円 可決

## 特別会計では、補正予算額19億916万8千円 可決

平成30年12月定例会は、12月3日から21日までの19日間にわたって行われました。

一般会計補正予算では、8月から9月の豪雨被害による復旧事業として、豪雨により被災した農業用施設や農地等の復旧に要する経費1億3,190万円をはじめ、県施行の街路事業負担金9,695万3千円、こども医療費助成金等3億2,653万7千円、音川健全育成室新規開設に伴う施設設備改修

業務委託145万円等を含め、12月補正額を8億7,631万3千円とし、30年度一般会計の合計額を1,606億9,553万9千円としました。因みに、人件費においては4億862万4千円減額としております。

また、特別会計では、企業団地造成事業特別会計において、第2期呉羽南部企業団地造成工事として、19億1,800万円を追加し、介護保険事業特別会計では、人件費分として1,444万8千円を減額する等、特別会計全体で19億916万8千円を追加し、30年度の特別会計の総額を1,375億4,460万円としました。

## 【その他主な事業】

- ▶ 県議会議員選挙費 3,236万円
- ▶ 生活保護事業扶助費 3億7,000万円
- ▶ 私立保育所等管理運営費 1億3,486万円



9月の豪雨により水路が埋塞 一婦中町鴨谷地内

## ご挨拶

明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、先月スウェーデン・ストックホルムにおいて、京都大学・特別講師の本庶佑さんが、ノーベル生理学・医学賞を受賞されました。

本庶さんは、免疫を抑える働きを阻害することで、がんを治療する画期的な免疫療法を確立し、がん治療に新たな道を切り開いた功績が評価されました。

本庶さんの先祖は中老田村で、祖母は県庁で薬事行政に携わっておられたことです。ご自身は京都市生まれですが、ご尊父は本市出身で、幼少期には富山大空襲に遭われ九死に一生を得られるなど、本市とは大変ご縁の深い方です。そういった関係から、今回名誉市民の推挙についての議案が提出されましたので、全会一致で可決いたしました。

次代を担う子供たちには、夢に向かって進む勇気と希望を本庶さんは、与えて下さったことと思っております。



皆様のご意見、ご要望をお待ちしております。

# 12月定例会一般質問



柞山 数男 議員  
(自由民主党)

## 来年度予算編成について

一般財源は総額1,087億円見込んでいる。

- 問** 来年度の一般財源の見込みは。
- 答** 市税は、約12億円増の740億円程度と見込んでいる。地方交付税については、市町村合併による支援措置が段階的に縮減される4年目であり、本年度当初予算と比べ17億円減の152億円程度と見込んでいる。

また、臨時財政対策債は、71億円程度と見込んでいる。このため、これらを含めた一般財源の総額は、本年度当初予算と比べて0.6%増の1,087億円程度と見込んでおり、大きな伸びは期待できない。

- 問** 小中学校空調整備など、長期の債務負担が設定されているが、今後の財政への影響は。

**答** 債務負担行為を設定した事業は、いずれも本市の喫緊の課題に対応したものである。今後、実際の支出を行う各年度においては事業の優先順位を見極め、事業の不断の見直しを行うことで、財源を確保して対応したい。債務負担行為は、将来負担比率に影響を与えるが、国が定める基準の半分以下であるので、健全な財政は維持できるものと考えている。



小中学校に長期債務負担で空調設備の設置

## 富山広域連携中枢都市圏について



孫とお出掛け支援事業が行われている  
富山市ファミリーパーク

滞在型周遊ルートについて検討している。

- 問** 今年4月から開始した連携事業のこれまでの主な実績は。

**答** まちなか総合ケアセンターでは、延べ60名程度の利用があり、「TOYAMAキラリを活用した教育普及事業」では、小学校8校176名の児童がキラリを訪れたほか、「孫とおでかけ支援事業」では、ファミリーパークに858人、科学博物館に614人が、それぞれ来場されている。さらに「こども医療費助成事業」では、住所地以外での助成件数の割合が、舟橋村91.9%、立

山町50%、上市町37%などとなっている。このほか「滞在型の観光客が訪れる立山・室堂において合同観光プロモーションを実施するとともに、圏域における新たな滞在型周遊ルートの造成についても、検討をおこなっている。

新たに検討している連携事業は3つの事業を予定している。

- 問** 新たに検討している連携事業はどのような内容か。

**答** 1つには、虐待等を理由とした一時的な緊急保護の場を確保する「高齢者虐待等発生時における一時保護事業」2つには、圏域内の公共交通機関の利用促進を図るため、夏休み期間中に親子などで公共交通機関を利用した場合に小学生の料金を無料にする「親子でおでかけ事業」3つには、圏域内の自治体職員の知識や技術力の向上を図るため、橋梁の維持管理等に関する技術研修会を開催するなどの「社会インフラの老朽化対策連携事業」を予定している。



## 中規模ホールの整備について

中ホールの整備方法は、「PFI方式」を導入する方針である。

**問** 中ホールの整備は、市が民間から借受ける「リース方式」を中心に検討していたが方針は変わらないか。

**答** 昨年、コンサルタント会社に委託し検討した結果、「リース方式」が有効と判断していたが、国からの補助金等が見込めず、支払い総額が増えることが課題であった。そんな中、国は公共施設のマネジメントの推進を図る観点から、平成33年度までを期限とする新たな事業債を創設しました。これは、幾つもの施設を集合させることによって、従前より施設の総延床面積が減少することが条件ですが、有利な事業債である。これらの状況を踏まえ、改めて「リース方式」と「PFI方式（民間資金活用による社会資本整備）」との財政負担を比較検証した結果、「PFI方式」が、市のトータルコストを抑えることが可能であることが明確になったことから、このほど中ホールの整備方法として、「PFI方式」を導入する方針としたところである。



中規模ホール整備が予定されるオーバードホール北側

## コンパクトなまちづくりの推進について

東富山駅東側周辺整備について



東富山駅整備イメージ図

**問** 東側周辺の宅地開発の状況は。

**答** 現在、民間事業者による宅地開発4haと地権者による区画整理事業8haが薦められている。民間開発については30年12月末に、区画整理事業については、31年3月末に造成が完了する予定であり、合わせて約200区画の宅地が供給されることとなる。

**問** 東口改札口設置に向けた取組みの現在の状況は。

**答** あいの風とやま鉄道では、東口改札について、平成32年度末頃の新設を目指し、現在は基本設計を行っており、来年度は詳細設計に着手されると伺っている。本市としては、東口改札の新設に係る事業費に対し支援していきたいと考えている。

**問** 東口駅前広場やアクセス道路の整備内容やスケジュール

**答** 東口駅前広場は、周辺環境や駅の利用状況を考慮し、自家用車やバスを想定した乗降場や駐輪場を整備することとしている。駅へのアクセス道路は、既存道路を活かし新設する駅前広場まで延伸するとともに、開発に伴い交通量の増加が見込まれることから、円滑な交通の確保のため、一部の道路を改良することを計画している。

呉羽駅北側周辺整備について

**問** 呉羽駅北側の開発状況は。

**答** 呉羽駅北側は、地元地権者等で構成する「呉羽駅北開発推進委員会」が中心となって開発計画の検討を行っており、現在、開発に意欲を持つ事業者と具体的な検討に入っていると聞いている。

**問** 呉羽駅北口改札の新設について、市はどのように考えているのか。

**答** 鉄道事業者である「あいの風とやま鉄道」が需要の有無や周辺開発の状況などを踏まえ、設置の是非が決定する。本市としては、今後、開発計画の熟度が高まり、駅周辺の人口増加が見込まれる計画が示されれば、東富山駅と同様に、呉羽駅にも改札口が新設されるよう、あいの風とやま鉄道へ要望していきたいと考えている。



開発が予定される呉羽駅北側周辺

# SDGs 未来都市について

## 「SDGs 未来都市」について

本市は、2018年6月15日に経済・社会・環境の分野をめぐる広範な課題に統合的に取り組む国（内閣府）の「SDGs 未来都市」に選定されました。併せて、SDGs 未来都市の中でも先導的な取り組みであって、多様なステークホルダーとの連携を通じて地域における自律的好循環が見込めるものとして、「自治体SDGsモデル事業」にも選定されました。

SDGs 未来都市の選定：29都市

うち自治体SDGsモデル事業の選定：10事業



SDGs 未来都市選定証授与式 2018年6月15日



## SDGs(エスディーゼーズ)とは

SDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)は、「世界中の誰一人取り残さない」をテーマに、平成27年9月の国連サミットで193の全ての国連加盟国が合意した2030年までに達成すべき課題と、その具体目標を定めたものです。

貧困・飢餓、健康・福祉、教育、気候変動、平和・公正といった17分野にわたる目標と、より具体的な達成目標である169のターゲット、さらに目標の達成に向けた進捗状況を測るための230のインディケータ(指標)が設けられ、グローバル化が急速に進む社会、経済、環境上の様々な課題に対して、世界各国の市民や企業、行政が協働して取り組んでいくためのキーワードとなるものです。

## 富山市SDGs未来都市計画の策定について

「SDGs未来都市」に選定されたことを受け、富山市では、持続可能な開発目標の達成に向けて総合的かつ効果的な取り組みの推進を図るため、富山市SDGs未来都市計画を策定しました。

## 富山市の持続可能な開発目標(SDGs)レポート2018

公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)との協働により、本市のSDGs達成に向けた取り組みを国内外へ発信することを目的として、「富山市持続可能な開発目標(SDGs)レポート2018」を作成しました。

本レポートは、本市のまちづくりの基本的な考え方である「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」の更なる深化に向けて、環境・エネルギー、健康・福祉、女性活躍、産業振興などの分野における取り組みとSDGsの各種目標を関連付けることで、時代の変化や社会の要請などに的確に対応しながら、持続可能な付加価値創造都市を実現するための基礎となるものです。

※詳細については、[公益財団法人地球環境戦略研究機関\(IGES\)のホームページ](#)をご覧ください